

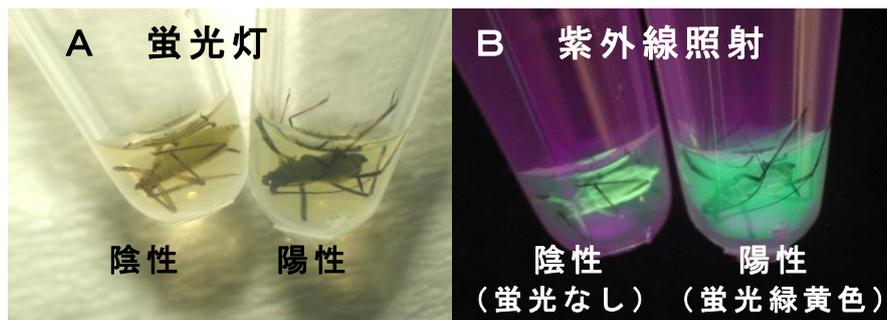
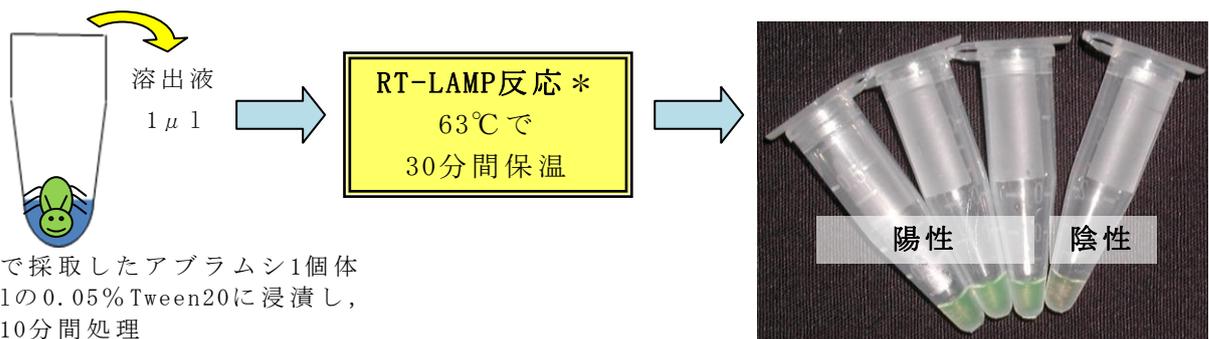
アブラムシ口針媒介ウイルス（クローバ葉脈黄化ウイルス） の個体別保毒虫診断法

バイオテクノロジー開発部 遺伝子工学チーム TEL:022-383-8131

研究の目的

農作物に被害をもたらすウイルスは、アブラムシの口針に付着して媒介されるタイプが多く、効果的な防除を行うために、アブラムシのどの種類がいつ農作物にウイルスを運ぶのか調べる必要があります。アブラムシの口針に付着しているウイルスは、微量で、かつ短時間で不活化するため、これまでは検出する方法がありませんでした。また、診断するときに、アブラムシを潰してしまうと、アブラムシの種類を調べるのが難しくなります。そこで、ソラマメ等に被害を及ぼすクローバ葉脈黄化ウイルス（C1YVV）をモデルとして、アブラムシを潰すことなく、1個体が保毒しているウイルスを簡易に検出する手法を開発しました。

研究成果



アブラムシが保毒しているウイルス(C1YVV)を直接検出した例

* 竹澤ら（平成17年度東北農業研究成果情報）によるC1YVV検出用プライマーを使用し、RT-LAMPキット（栄研化学）により反応を行う。

普及の見込

試験研究機関で実施可能です。

宮城県
農業・園芸総合研究所

宮城県名取市高館川上字東金剛寺1番地
TEL: 022-383-8111(代表) FAX: 022-383-9907(代表)
ホームページ: http://www.pref.miyagi.jp/res_center/
E-mail: marc-fk@pref.miyagi.jp(代表)